

Japan Day の開催

2026年3月28日、タジキスタン国立博物館にて博物館協力の下「Japan Day」が開催され、来場した約1,000人が、タジキスタンで春の訪れを祝うナウルーズ連休中に日本文化を楽しみました。

開会式の挨拶で、古田恵子大使は、タジキスタンでは未だ日本文化について知る人が少ない中で本行事は本物の日本文化に接する良い機会であることを強調しました。タジキスタン側からは、サファルゾダ・ダヴラト文化省次官及びジョノン・シェラリ外務省アジア太平洋諸国局長が、日本滞在時の思い出に言及しつつ、日本デー開催を温かく歓迎する挨拶を述べました。



行事の目玉として、500年以上の歴史を持つ茶道（裏千家）のクズミノフ・絵理子講師とアシスタントのゴルブノヴァ・タチヤナ氏をウズベキスタン日本センターから迎え、ステージでは、茶道についてのミニレクチャーと本格的な点前が披露されました。



タジキスタン政府関係者や外交団の来客も、和菓子と抹茶を楽しみました。



また、ステージでは、講師による着物の着付けとショーが行われました。



来場者が浴衣を着付けてもらい日本の風景ゾーンで写真を撮影するブースは女性に大人気で、浴衣着付けの行列ができていました。



他の伝統文化である書道のブースが設けられ、来場者も筆と墨で字を書く体験をしました。



来場者の中でも子供達に人気だったのは、日本の伝統遊具コーナーでした。JICA ボランティアと日本語学生ボランティアと一緒に、輪投げ、けん玉、お手玉といった伝統的な遊びの体験ができました。



タジキスタンの各関連団体の協力を得て、柔道、空手、極真空手、合気道の技が披露されました。



アンケート結果では、回答者の 90%以上が行事に感銘を受けたと回答しました。また、多くの人が行事を通して日本及び日本文化への理解が深まったと回答し、もっと頻繁にこのような文化行事を行ってほしい、といったコメントもありました。

ドゥシャンベで開催された今回の Japan Day は、地理的に遠い日本の文化をタジキスタンの人々に知ってもらう良い機会となりました。